

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02665

研究課題名(和文) グローバルに教職高度化を促進する教師教育者養成研修モデルの開発

研究課題名(英文) Development of Teacher Educator Training Models for Global Advancement of Teaching Profession

研究代表者

丸山 恭司 (Maruyama, Yasushi)

広島大学・人間社会科学研究科(教)・教授

研究者番号：30253040

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,200,000円

研究成果の概要(和文)：教職の高度化が世界的に求められるなか、日本がその国際的役割を果たせるよう、グローバルに通用する教師教育者の養成研修モデルを開発し、教育的質の向上に資する自律的持続的システムを提案した。日本で教員研修の方法として定着している授業研究を枠組みとし、専門職養成の方法として開発されてきたケースメソッドを実施できる教師教育者を養成研修するというモデルである。このモデルを博士課程後期に設置された「広島大学教職課程担当教員養成プログラム」において実施するとともに、海外の協定大学と共同研究と試行を通して、教職高度化のグローバル化を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、教師教育者の養成研究モデルの開発を目的としており、教職を高度化するという研究成果の社会的実装として実践的な研究である。また、この教職の高度化を日本のみならず、途上国を含めたグローバルな展開を目指すものである。これまで着目されてこなかった「教師教育者」の役割に焦点を当て、教育の質を高めようとする点で学術的に新規性があり、社会改善に資する点で社会的意義のある研究である。

研究成果の概要(英文)：As the sophistication of the teaching profession is required worldwide, we will develop a training model for teachers and educators that is globally accepted so that Japan can play its international role, and create an autonomous and sustainable system that contributes to improving the quality of education. Proposed. It is a model that trains teachers and educators who can implement the case method that has been developed as a method of training professionals, with the framework of lesson research that has become established as a method of teacher training in Japan. This model was implemented in the "Hiroshima University Teacher Training Program for Teaching Profession" established in the latter half of the doctoral program, and through joint research and trials with overseas partner universities, we promoted the globalization of the sophistication of teaching profession.

研究分野：教育学

キーワード：教師教育者 授業研究 ケースメソッド 教職高度化 教職課程担当教員

1. 研究開始当初の背景

(1) **途上国における教師教育の改善へ向けた協力要請**: 日本の教育はその戦後の速やかな復興と経済的成長をもたらした一要因であったとして、海外の人々からしばしば学ぶべき対象とされてきた。日本には、途上国の教育改善への協力要請に応える国際的な責務があり、すでに途上国の教育制度・課程の構築や現職教員の研修については一定の協力実績がある。今後は外的な支援に依らず、教育改善を自律的に継続できる体制づくりが求められる段階に入っている。

また、途上国のなかには、安定した発展の結果、これまで中等教育で行っていた教員の養成を高等教育で行い始めた国々がある。教員に学士号をもたせることによって教育水準の向上を目指しているのである。この点でも、戦後の日本の教員養成改革に学びたいとの要請が高まっている。

研究代表者の勤務校である広島大学は教員養成並びに研修の研究において国際的に知られており、しばしば途上国から協力依頼がある。例えば、ドミニカ共和国高等教育省からの依頼を受けて広島大学は平成 22 年から 6 年間、基幹大学であるサントドミンゴ自治大学に新設された教育科学部教員を対象に授業研究セミナー(優れた学校教員を養成するために、大学教員自らが優れた授業を行う)を行い、研究代表者は責任者として関わった。日本の授業研究の文化的前提もあり、定着には試行錯誤がともなったが、文化的差異を前提とした導入方法の開発に一定の成果を上げることができた(広島大学大学院教育学研究科、2013 年)。

また、平成 27 年にカンボジア教育省より、教員に学士号を付与するための新たな課程・方法の開発への協力が求められ、研究代表者は、科研費(挑戦的萌芽研究)の支援を受けてカンボジアで調査(研究会への参加、専門家との会合)を行い、基幹大学である王立プノンペン大学における教師教育者の養成研修モデルの開発を進める計画案を立て、これに基づいて大学間交流協定を交わしている。

(2) **学術的根拠に基づいた教師教育者養成研修システムの世界的必要**: 先進とされる国々においても教師教育者の養成・研修のシステムが十分に確立しているわけではない。教員の社会的地位を向上させるためには教師教育者の専門職化が必要であると指摘されて久しいが、現状はあまり改善されていない(Labaree, 1992)。

日本の場合もようやく平成 25 年度中教審答申において、教職課程担当教員の養成の必要性が指摘されたところであり、教職課程はその内容と教授法の双方に関し、教育学的に十分な精査が行われているとは言い難い。研究代表者はこれに先だって平成 19 年に博士課程後期院生を対象とした「教職課程担当教員養成プログラム」を広島大学に立ち上げた。教育学研究者の養成と同時に教師教育者の養成を図る当プログラムは、TA 制度を利用した教育実習プログラムであり、大学の授業研究を中心に置く。教職課程のあり方を理論的実践的に探索可能な場として本プログラムが利用され、我が国における教師教育者養成研修システムを確立するとともにグローバルに通用する教師教育者の養成研修モデルの開発が期待される。

2. 研究の目的

教育立国として成功した日本にはその成果を国際社会に還元する責務があり、教育改善を自律的に継続できる体制づくりと、教師教育の高度化(高等教育化)に応じた支援が、途上国から求められている。また先進国であっても教師の社会的地位は必ずしも高い訳ではない。本研究は、「良き教師教育者が良き学校教員を育てる」との考えに基づき、「教師教育者」(とりわけ、大学における教員養成担当者)の養成と研修に着目する。教職の高度化が世界的に求められるなか、日本がその国際的役割を果たせるよう、グローバルに通用する教師教育者の養成研修モデルを開発し、教育的質の向上に資する自律的持続的システムを提案することを目的とする。これを実現するために、次の 3 点を下位目標に設定した。

・教育学研究の観点から、教職課程がどのようなものであるべきなのかを学術的根拠とともに精査し、教師教育者の養成と研修のための内容と方法を提示する。

・「専門職者の成長」の観点から、教師教育者に求められる資質能力がどのように獲得されうるのかを明らかにする。

・上記二点の成果から、教師教育者の養成ならびに研修プログラムのモデル案を提示し、国内外で試行して、より汎用性の高いモデルを開発する。

3. 研究の方法

海外研究者の協力を得ながらグローバルな視点を持ちつつ、まずは国内でモデルを開発し、その適応・検証を海外の養成機関において試行し改善を図る。本研究の遂行にあたり、3つのサブセクション(内容(教職課程研究)と方法(ケースメソッド、授業研究))と2つの附属セクション(海外における試行と外部評価)を設ける。

サブセクション 【教職課程研究と教職課程担当教員養成】

広島大学教職課程担当教員養成プログラムを介して、教育学研究者らとともに教職課程研究を行う。また、当該養成プログラムの実践を参考に、TA 研修に関わって協力関係にあるフロリダ州立大学と連携を図る。

サブセクション 【専門職の養成・研修方法としてのケースメソッド開発】

教職課程担当教員養成プログラム運営メンバーとともに、既に協力関係のある学校ケースメソッド教育研究会およびケースメソッド教育研究所といっそうの研究連携を図る。ケースメソッドは広く専門職養成の方法として普及しており、教職課程の授業法ならびに教職課程担当教員の養成研修の方法としてケースメソッドの開発に取り組む。

サブセクション 【授業研究を中心とした教師教育者研修プログラムの開発と実践】

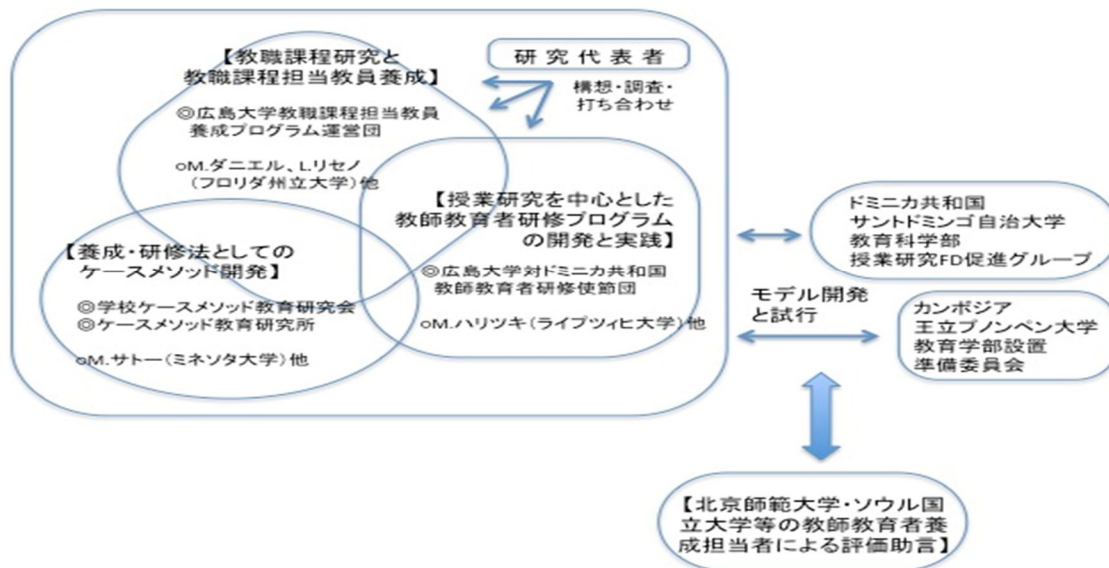
日本では教員研修の方法として定着している授業研究を中心においた教師教育者の研修プログラムを実施しつつ、そのグローバルな普及方法を探る。教職課程担当教員養成プログラムの中心に授業研究を据えて実施する。加えて、サントドミンゴ自治大学教育科学部に対し、授業研究の普及を主な手段として、教育科学部の組織づくりと授業力の強化を図った結果、自治大学内に研修グループが形成され、自律的継続的なFDが行われるようになり、また、研修プログラムのモデルが作られ、そのための教材が開発された。これらを検証するとともに、ドイツ・ライプツィヒ大学と授業研究に関わる共同研究を進めグローバルな高度化を図る。

以上の3サブセクションに加え、ドミニカ共和国・サントドミンゴ自治大学ならびにカンボジア・王立プノンベン大学においてモデルを試行する附属セクション と、広島大学と緊密な関係にあり、教師教育者養成というミッションを同じくする北京師範大学とソウル国立大学の担当者から外部評価を受けて更なる改善を図るための附属セクション を設ける。

附属セクション 【途上国の協力依頼機関におけるモデル開発と試行】

附属セクション 【教師教育者養成をミッションとする大学の担当者による評価】

〈グローバルに教職高度化を促進する教師教育者養成研修モデルの開発〉



4. 研究成果

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、研究期間を1年延長した上で修正を余儀なくされた研究課題ではあったが、以下の成果を得ることができた。

(1) 「教師教育者」という概念の精密化と普及：研究開始当初、「教師教育者 teacher educator」という言葉は広く普及しておらず、また様々な意味で取られ、厳密に使われることは教育学においても十分ではなかった。本研究の成果報告等を通して「教師教育者」という言葉が広まりつつあり、またその厳密な使用にも貢献することができている。

(2) 教師教育者の養成研修モデルの提示：教師の養成と研修を担当する教師教育者を大学院でいかに養成し、また継続して研修を行うのかについて、一つのモデルを提示することができた。授業研究という枠組みの中で、ケースメソッドを実施できる教師教育者を養成研修するというモデルである。一方、このモデルのグローバルな普及には、いくつかの困難のともなうことも明らかとなった。教員養成自体がローカル言語に大きく左右されるものであるため（ドミニカ共和国ではスペイン語、カンボジアではクメール語）、日本語や英語のマニュアルだけでは不十分であることがその一つである。また、言語のみならず、それぞれの社会における教育文化の特徴を踏まえなければ、同僚と学ぶことを前提とする授業研究やケースメソッドを普及させることが

難しいことも明らかとなった。

(3) 「教師教育者」研究のグローバル展開：海外協力者の異動や新型ウィルス感染症の蔓延のために、本研究のグローバルな展開に関わっては計画通りに進まなかった点が少なからずあった。一方、研究期間にあって、カンボジアにおいては新設された教員養成大学における研修企画に加わることができた。また、協定大学である北京師範大学やソウル国立大学がメンバーとなっている International Network of Educational Institutes (他に、ロンドン大学、ウィスコンシン大学、トロント大学、サンパウロ大学、メルボルン大学、南洋理工大学、オーフス大学、ケープタウン大学)への加盟が広島大学に認められることにより、教師教育者養成をミッションとする大学と本研究を共同研究として継続深化させることができるようになった。さらに、ライプツィヒ大学とは授業研究の国際比較を共同で行うことにより、教職のグローバルな高度化を進めることができている。

引用文献

広島大学大学院教育学研究科『発展途上国の持続的発展を担う次世代育成システムの改善：ドミニカ共和国をフィールドとした教員養成の質向上に関する研究』、2013年。
Labaree, D.F., “Power, Knowledge, and the Rationalization of Teaching,” *Harvard Educational Review* 62-2, 1992.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 68
2. 論文標題 ドイツ・ライブツィヒにおける教員養成改革	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部（教育人間科学関連領域）	6. 最初と最後の頁 27-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/48508	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉田成章	4. 巻 86-4
2. 論文標題 ドイツとの授業の比較検討による日本の授業研究の海外展開の可能性と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 565-578
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 丸山恭司	4. 巻 28
2. 論文標題 ウィトゲンシュタイン哲学を教育学へとつなぐ教育哲学的方法 シンポジウム「教育学としてのウィトゲンシュタイン研究：現在の到達点と今後の展開」に寄せて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近代教育フォーラム	6. 最初と最後の頁 107-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小笠原道雄・森田尚人・北詰裕子・白銀夏樹・丸山恭司	4. 巻 2019
2. 論文標題 ディシプリンとしての教育学を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 119-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 竹内伸一・鎌塚優子・中村美智太郎	4. 巻 51
2. 論文標題 ケースメソッドによる道德教育実践を指揮した一校長に関する研究--リーダーの内面に形成されゆく教育実践基盤をナラティブから取り出す試み--	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）	6. 最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ito Hiroshi, Takeuchi Shinichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Instructors' understanding, practices, and issues regarding the use of the case method in higher education	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Further and Higher Education	6. 最初と最後の頁 1~15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/0309877X.2020.1744544	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸橋 静香、村松 灯、田中 智輝、渡邊 優子、町支 大祐、山辺 恵理子、竹内 伸一、丸山 恭司	4. 巻 117
2. 論文標題 ケースメソッドと教育哲学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 105-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守谷 富士彦、大坂 遊、桑山 尚司、平田 浩一、升谷 英子、草原 和博	4. 巻 67
2. 論文標題 カンボジア中学校社会科授業の現状と再生産の構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要．第二部，文化教育開発関連領域	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大坂遊、桑山尚司、守谷富士彦、草原和博	4. 巻 25
2. 論文標題 教科書開発者の専門性を高める研修プログラムをいかにデザインするか カンボジア教育省社会科教科書改訂プロジェクトを例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 93-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内伸一	4. 巻 1224
2. 論文標題 ケースメソッドと向き合って	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三田評論	6. 最初と最後の頁 76-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内伸一	4. 巻 555
2. 論文標題 管理職の力量をどう見るか - ケースメソッドの可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久恒拓也	4. 巻 平成30年度
2. 論文標題 ブレFD としての教師教育者養成の取組みについての研究事例 広島大学の教職課程担当教員養成プログラムを対象に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職課程担当教員養成プログラム報告書	6. 最初と最後の頁 17-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内伸一、林照子	4. 巻 64
2. 論文標題 道徳実践力の向上を目指す教職課程におけるケースメソッド教育実践とその評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育学研究紀要 (CD-ROM版)	6. 最初と最後の頁 624-629
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田成章、赤星まゆみ、山本ベバリーアン、高橋洋行	4. 巻 66
2. 論文標題 EU諸国等における学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの動向	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 (教育人間科学関連領域)』	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/44804	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田成章	4. 巻 24
2. 論文標題 現代ドイツにおけるカリキュラム改革 教育の自由はどのように守られているか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』	6. 最初と最後の頁 115-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/45465	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹下俊治、草原和博、間瀬茂夫、森田愛子、吉田成章、米沢崇	4. 巻 16
2. 論文標題 ポートフォリオ評価を基軸とした、大学における教職課程の改革に関する研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書』	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/45426	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内伸一	4. 巻 115
2. 論文標題 社会人学生の信頼獲得をめぐる省察 - 学問的専門性と知的探求態度との間で -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内伸一	4. 巻 94
2. 論文標題 学生と教員のより建設的な関係構築に向けた教育的働きかけ - 本学児童学科における「専門ゼミナール」での実践報告 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 研究紀要 (徳島文理大学)	6. 最初と最後の頁 143-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takeuchi, Shinichi	4. 巻 2
2. 論文標題 Reflection on Gaining Trust of Students with Careers—Between Academic Expertise and Intellectual Pursuit—	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 English E-Journal of the Philosophy of Education	6. 最初と最後の頁 26-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 生田久美子、丸山恭司	4. 巻 115
2. 論文標題 哲学生成の現場としての教育実践 課題研究に関する総括的報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 47-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 14件）

1. 発表者名 Nariakira Yoshida, Yasushi Maruyama, Mitsuru Matsuda, Kazuhiro Kusahara, Shigeo Mase, Kazuya Kageyama, Shotaro Iwata, Yuichiro Sato, Miyuki Okamura, Maho Yodozawa, Yuichi Miyamoto, Aiko Hamamoto, Asuka Matsuura, Yu Yamamoto, Seigi Naganuma, Mayumi Kawamura
2. 発表標題 Lesson Study-based Training of Teacher Educator: Case Study on Self-Study and Cooperative Lesson Study
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Maruyama
2. 発表標題 A Philosophy of Educational Relationship: Education As Mutual Growth Or Unaware Violence
3. 学会等名 Conference on Children and Childhoods: Philosophy and Pedagogy of Childhood Education in the Classroom in the 21st Century (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Maruyama
2. 発表標題 Asian Regional Forum on Rural Education, Cultural Diversity and Sustainable Development
3. 学会等名 Conference of Dialogue on Asian Civilizations (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisashi Kuwayama, Yasushi Maruyama
2. 発表標題 Current Status and Future Prospects of the Pre-service and In-service Education for Teacher Educators in Cambodia
3. 学会等名 the 1st Biennial Conference of Comparative Education Society of Cambodia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丸山恭司・山名淳・Lothar Wigger・金鍾成
2. 発表標題 HIROSHIMAという記憶の継承と和解：日独韓の声の交わりに見る表象の刷新
3. 学会等名 教育哲学会第62回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小笠原道雄・森田尚人・森田伸子・田中每実・丸山恭司
2. 発表標題 ディシプリンとしての教育学をめぐる合同討論会
3. 学会等名 教育哲学会第62回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nariakira Yoshida, Yasushi Maruyama, Ting Ban, Takuya Hisatsune, Shohei Fukami, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Yinan Li, Takahiro Umeda, Maho Yodozawa, Xinhui Zhou, Asuka Matsuura, Sho Ueda, Yu Yamamoto
2. 発表標題 Lesson Study as preparing future faculty development for teacher educator: A case study on the certificate program for preparing future faculty in teacher education in Hiroshima University
3. 学会等名 The World Association of Lesson Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasushi Maruyama
2. 発表標題 Traditions and Significances of Higher Learning Exchanges in East Asia
3. 学会等名 Campus Asia Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasushi Maruyama, Dy Samsideth, Chhinh Sitha, Sok Soth, Koji Takahashi, and Hisashi Kuwayama
2. 発表標題 How should Teacher Educators Be Trained?: Cases in Japan and Cambodia
3. 学会等名 The 11th Biennial Comparative Education Society of Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内伸一
2. 発表標題 協働的な学校運営を基にした課題解決に向けて
3. 学会等名 広島市学校運営推進リーダー育成研修・同主幹教諭研修(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内伸一
2. 発表標題 考えさせ議論させる授業のためのケースメソッド教授法
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Haruo Takagi, Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 How Japanese BSs adopted the Case Method; Cases of KEIO and NUCB BSs
3. 学会等名 Annual Conference of The Association to Advance Collegiate Schools of Business (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内伸一、林照子
2. 発表標題 道徳実践力の向上を目指す教職課程におけるケースメソッド教育実践とその評価
3. 学会等名 中国四国教育学会第70回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内伸一
2. 発表標題 ケースメソッドによる教員研修の始動 - 教員にも『主体的・対話的で深い学び』を -
3. 学会等名 広島大学大学院教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田成章
2. 発表標題 ポートフォリオ評価を軸にした教員の養成と教師教育者の養成 京都大学・石井英真准教授と語るこれからの教師教育
3. 学会等名 広島大学教育ヴィジョン研究センター（EVRI）定例セミナー講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maruyama, Yasushi
2. 発表標題 Global Solidarity and Continuous Innovations through Higher Learning in Japan
3. 学会等名 Association of Southeast Asian Institutions of Higher Learning (Soka University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maruyama, Yasushi
2. 発表標題 The Aging Population and Continued Education: Challenges of Hiroshima University
3. 学会等名 KU Presidents Forum: Higher Education in Times of Change (Kasetsart University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maruyama, Yasushi
2. 発表標題 Introduction to the Research Project "Development of Teacher Educator Training Models for Global Advancement of Teaching Profession"
3. 学会等名 International Symposium of Hiroshima University and Leipzig University on Lesson Study (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Maruyama, Yasushi
2. 発表標題 An Inclusive Education in School: Suggestions from the Viewpoint of Moral Education in Japan
3. 学会等名 The 2nd International Conference on Special Educational Needs (Indonesia University of Education) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Maruyama, Yasushi
2. 発表標題 Colonialism in Modern Education
3. 学会等名 Cairo University Center for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田成章
2. 発表標題 現代ドイツのカリキュラム改革 教育の自由はどのように守られているか
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第28回大会課題研究
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nariakira Yoshida, Maria Hallitzky, Tomohiro Hayakawa, Yuichi Miyamoto, Emi Kinoshita, Christian Herfter, Johanna Leicht, Karla Spendrin
2. 発表標題 Individualism and Collectivism in Classes. Comparative Analysis of Lessons in Germany and Japan
3. 学会等名 WALS(The World Association of Lesson Studies) Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 丸橋静香・村松灯・田中智輝・渡邊優子・町支大裕・山辺恵理子・竹内伸一・丸山恭司
2. 発表標題 ケースメソッドと教育哲学 --実践の報告と教育哲学的意義の検討--
3. 学会等名 教育哲学会第60回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 竹内伸一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ディスカバー・トゥエンティワン	5. 総ページ数 283
3. 書名 『名古屋商科大学ビジネススクール ケースメソッドMBA実況中継 01 経営戦略とマーケティング』（牧田幸裕）第1章「ケースメソッド教育とは」（13-26）	

1. 著者名 竹内伸一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ディスカバー・トゥエンティワン	5. 総ページ数 208
3. 書名 『名古屋商科大学ビジネススクール ケースメソッドMBA実況中継 02 リーダーシップ』（高木晴夫）第1章「ケースメソッド教育とは」（11-24）	

1. 著者名 吉田成章	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 402
3. 書名 『現代カリキュラム研究の動向と展望』「第14章 海外のカリキュラム実践からの示唆 第7節 ドイツ」	

1. 著者名 吉田成章	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八千代出版	5. 総ページ数 349
3. 書名 『PISA後のドイツにおける学力向上政策と教育方法改革』「コンピテンシー志向のカリキュラム改革と授業づくりの意義と課題」	

1. 著者名 丸山恭司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 220
3. 書名 教員養成を担う：「先生の先生になる」ための学びとキャリア	

1. 著者名 丸山恭司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 268
3. 書名 教育的関係の解釈学	

1. 著者名 中村美智太郎・鎌塚優子・竹内伸一・岡田加奈子 編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 128
3. 書名 とことん考え話し合う道徳：ケースメソッド教育実践入門	

1. 著者名 竹内伸一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 160
3. 書名 教育経営ハンドブック（元兼 正浩、北神 正行、日本教育経営学会、本図 愛実）「スクールリーダー育成とケースメソッド」	

1. 著者名 深澤広明、吉田成章（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 161
3. 書名 学習集団研究の現在Vol.2 学習集団づくりが描く「学びの地図」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

広島大学教育ビジョン研究センター「教師教育者」クラスター
http://evri.hi-roshima-u.ac.jp/teacher_educator-cluster

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹内 伸一 (Takeuchi Shinichi) (60774487)	名古屋商科大学・経営学部・教授 (33914)	
研究分担者	吉田 成章 (Yoshida Nariakira) (70514313)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	
研究分担者	桑山 尚司 (Kuwayama Hisashi) (90379850)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・講師 (15401)	
研究分担者	久恒 拓也 (Hisatsune Takuya) (30781257)	新見公立大学・健康科学部・講師 (25302)	平成29年から30年まで
研究分担者	松田 充 (Matsuda Mitsuru) (80845991)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・助教 (15401)	令和元年以降

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ライプツィヒ大学			
カンボジア	教育省	王立プノンベン大学	プノンベン教員養成大学	他1機関